



## Red Hat build of OpenJDK 11

Windows 用の Red Hat build of OpenJDK 17 の  
インストールおよび使用



# Red Hat build of OpenJDK 11 Windows 用の Red Hat build of OpenJDK 17 のインストールおよび使用

---

## 法律上の通知

Copyright © 2024 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux<sup>®</sup> is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java<sup>®</sup> is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS<sup>®</sup> is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL<sup>®</sup> is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js<sup>®</sup> is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack<sup>®</sup> Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

## 概要

Red Hat ビルドの OpenJDK は、Microsoft Windows プラットフォーム上の Red Hat 製品です。Windows 向けの Red Hat build of OpenJDK 17 のインストールと使用では、この製品の概要と、ソフトウェアをインストールして使用を開始する方法を説明します。

---

## 目次

RED HAT BUILD OF OPENJDK ドキュメントへのフィードバック .....	3
多様性を受け入れるオープンソースの強化 .....	4
第1章 MICROSOFT WINDOWS 用の RED HAT BUILD OF OPENJDK 17 のインストールオプション .....	5
第2章 アーカイブを使用した MICROSOFT WINDOWS 用の RED HAT BUILD OF OPENJDK 17 のインストール	6
第3章 アーカイブを使用した MICROSOFT WINDOWS 用の RED HAT BUILD OF OPENJDK 17 の更新 .....	7
第4章 MSI インストーラーを使用した RED HAT BUILD OF OPENJDK のインストール .....	8
第5章 RED HAT BUILD OF OPENJDK MSI インストーラーコンポーネント .....	9
付録A MSI ベースのインストーラープロパティ .....	10



## RED HAT BUILD OF OPENJDK ドキュメントへのフィードバック

エラーを報告したり、ドキュメントを改善したりするには、Red Hat Jira アカウントにログインし、課題を送信してください。Red Hat Jira アカウントをお持ちでない場合は、アカウントを作成するように求められます。

### 手順

1. 次のリンクをクリックして [チケットを作成します](#)。
2. **Summary** に課題の簡単な説明を入力します。
3. **Description** に課題や機能拡張の詳細な説明を入力します。問題があるドキュメントのセクションへの URL を含めてください。
4. **Submit** をクリックすると、課題が作成され、適切なドキュメントチームに転送されます。

## 多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、今後の複数のリリースで段階的に用語の置き換えを実施して参ります。詳細は、[Red Hat CTO である Chris Wright のメッセージ](#) を参照してください。



## 第1章 MICROSOFT WINDOWS 用の RED HAT BUILD OF OPENJDK 17 のインストールオプション

Windows 用の Red Hat build of OpenJDK 17 は、アーカイブを使用またはグラフィカルユーザーインターフェイスを使用して手動でインストールできます。

状況に応じて、以下のいずれかのインストール方法を使用します。

- [アーカイブを使用した Red Hat build of OpenJDK のインストール](#)
- [MSI インストーラーを使用した Red Hat build of OpenJDK のインストール](#)

## 第2章 アーカイブを使用した MICROSOFT WINDOWS 用の RED HAT BUILD OF OPENJDK 17 のインストール

この手順では、アーカイブを使用して Microsoft Windows 用の Red Hat build of OpenJDK 17 を手動でインストールする方法を説明します。

### 手順

1. Microsoft Windows 用の Red Hat build of OpenJDK 17 の [アーカイブをダウンロード](#) します。
2. アーカイブの内容を任意のディレクトリーにデプロイメントします。



#### 注記

ZIP バンドルの内容を、スペースを **含まない** ディレクトリーパスに抽出することが推奨されます。

3. 以下のように **PATH** を更新します。
    - a. Microsoft Windows インストールパス用の Red Hat build of OpenJDK17 に含まれる **bin** ディレクトリーを、**%PATH%** 環境変数に追加します。
- ```
C:\> setx /m PATH "%PATH%;C:\Progra~1\RedHat\java-11-openjdk-11.0.1.13-1\bin"
```
- パスにスペースが含まれている場合は、短いパス名を使用します。
- b. コマンドプロンプトを再起動して、環境変数を再読み込みします。
4. Microsoft Windows 用の Red Hat build of OpenJDK 17 が正常にインストールされていることを確認し、コマンドプロンプトで **java -version** コマンドを実行して、以下の出力を取得する必要があります。

```
openjdk version "11.0.3-redhat" 2019-04-16 LTS
OpenJDK Runtime Environment 18.9 (build 11.0.3-redhat+7-LTS)
OpenJDK 64-Bit Server VM 18.9 (build 11.0.3-redhat+7-LTS, mixed mode)
```

- a. 管理者としてコマンドプロンプトを開きます。
  - b. Microsoft Windows インストールパス用に、環境変数の値を Red Hat build of OpenJDK 17 に設定します。
- ```
C:\> setx /m JAVA_HOME "C:\Progra~1\RedHat\java-11-openjdk-11.0.1.13-1"
```
- パスにスペースが含まれている場合は、短いパス名を使用します。
- c. コマンドプロンプトを再起動して、環境変数を再読み込みします。

## 第3章 アーカイブを使用した MICROSOFT WINDOWS 用の RED HAT BUILD OF OPENJDK 17 の更新

Microsoft Windows 用の Red Hat build of OpenJDK 17 は、アーカイブを使用して手動で更新できます。

### 手順

1. Red Hat build of OpenJDK 17 の [アーカイブをダウンロード](#) します。
2. アーカイブの内容を任意のディレクトリーにデプロイメントします。



### 注記

ZIP バンドルの内容を、スペースを含まないディレクトリーパスに抽出することが推奨されます。

3. コマンドプロンプトで、以下のように **JAVA\_HOME** 環境変数を更新します。
  - a. 管理者としてコマンドプロンプトを開きます。
  - b. Microsoft Windows インストールパス用に、環境変数の値を Red Hat build of OpenJDK 17 に設定します。

```
C:\> setx /m JAVA_HOME "C:\Progra~1\RedHat\java-11-openjdk-11.0.1.13-1"
```

パスにスペースが含まれている場合は、短いパス名を使用します。

- c. コマンドプロンプトを再起動して、環境変数を再読み込みします。
4. **PATH** 変数の値が設定されていない場合は、値を設定します。

```
C:\> setx -m PATH "%PATH%;%JAVA_HOME%\bin";
```

5. コマンドプロンプトを再起動して、環境変数を再読み込みします。
6. 完全パスを指定せずに **java -version** が機能することを確認します。

```
C:\> java -version
openjdk version "11.0.3" 2019-04-16 LTS
OpenJDK Runtime Environment (build 11.0.3+7-LTS)
OpenJDK 64-bit Server VM (build 11.0.3+7-LTS, mixed mode)
```

## 第4章 MSI インストーラーを使用した RED HAT BUILD OF OPENJDK のインストール

この手順では、MSI ベースのインストーラーを使用して Microsoft Windows 用の Red Hat build of OpenJDK 17 をインストールする方法を説明します。

### 手順

1. Microsoft Windows 用の Red Hat build of OpenJDK 17 の [MSI ベースインストーラーをダウンロード](#) します。
2. Microsoft Windows 用の Red Hat build of OpenJDK 17 のインストーラーを実行します。
3. Welcome 画面で **Next** をクリックします。
4. **I accept the terms in license agreement** をチェックして、**Next** をクリックします。
5. **Next** をクリックします。
6. デフォルトを使用するか、[オプションのプロパティ](#)を確認します。
7. **Install** をクリックします。
8. **Do you want to allow this app to make changes on your device?** で **Yes** をクリックします。
9. Microsoft Windows 用の Red Hat build of OpenJDK 17 が正常にインストールされていることを確認し、コマンドプロンプトで **java -version** コマンドを実行して、以下の出力を取得する必要があります。

```
openjdk version "11.0.3-redhat" 2019-04-16 LTS
OpenJDK Runtime Environment 18.9 (build 11.0.3-redhat+7-LTS)
OpenJDK 64-Bit Server VM 18.9 (build 11.0.3-redhat+7-LTS, mixed mode)
```

## 第5章 RED HAT BUILD OF OPENJDK MSI インストーラーコンポーネント

Microsoft Windows MSI ベースのインストーラーコンポーネント用に、以下の Red Hat build of OpenJDK 17 を設定します。

### jdk

Java Development Kit (JDK) ファイル

### jdk-registry-standard

レジストリーキー:

```
HKLM\Software\JavaSoft\JDK\<version>, entries:  
  JavaHome: <INSTALLDIR>  
  RuntimeLib: <INSTALLDIR>\bin\server\jvm.dll
```

```
HKLM\Software\JavaSoft\JDK, entries:  
  CurrentVersion: <version>
```

### jdk\_env\_path

<INSTALLDIR>\bin を %PATH% 環境変数に追加します。

### jdk\_env\_java\_home

<INSTALLDIR> を %JAVA\_HOME% 環境変数に設定します。

### jdk\_env\_vendor\_java\_home

<INSTALLDIR> を %REDHAT\_JAVA\_HOME% 環境変数に設定します。

### jdk\_registry\_jar

JAR ファイルの関連付け。Red Hat build of OpenJDK コンテキストメニューで JAR ファイルを起動します。

### jmc

<INSTALLDIR>\missioncontrol にインストールされている JDK Mission Control ファイル。

### jmc\_env

<INSTALLDIR>\missioncontrol をシステム %PATH% 環境変数に追加します。

## 付録A MSI ベースのインストーラープロパティ

Windows MSI ベースのインストーラー用の Red Hat build of OpenJDK には、JDK Files コンポーネントと、以下のオプションのプロパティが含まれています。

表A.1 Red Hat build of OpenJDK for Windows MSI ベースのインストーラープロパティ

プロパティ	説明	デフォルト値
OpenJDK ランタイム: Windows レジストリー	以下のレジストリーキーは HKLM\Software\JavaSoft\JDK\ <version>, entries: JavaHome: <INSTALLDIR> RuntimeLib: <INSTALLDIR>\bin\server\jvm.dll HKLM\Software\JavaSoft\JDK, entries: CurrentVersion: <version> に設定されています。	○
OpenJDK ランタイム: パス変数	Runtime を Path 変数に追加するため、コマンドラインで使用できるようにします。	○
OpenJDK ランタイム: JAVA_HOME システム変数	JAVA_HOME は、Java ランタイムを見つけるために一部のプログラムによって使用されます。	×
OpenJDK Runtime: REDHAT_JAVA_HOME システム変数	REDHAT_JAVA_HOME は、プログラムによって Red Hat build of OpenJDK ランタイムを検索できます。	×
OpenJDK ランタイム: Jar ファイルの関連付け	これにより、Windows Explorer 内から Jar ファイルを実行できます。	×
ミッションコントロール: ファイル	<installdir>\missioncontrol ディレクトリーにインストールされるファイルが含まれます。	×
ミッションコントロール: パス変数	<installdir>\missioncontrol をシステム PATH 環境変数に追加します。	いいえ

改訂日時: 2024-05-10